



薩摩杉前立正角 薩摩杉は屋久杉の通称。樹脂が強く匂いがあり、杣目が細かく美しい。大径木から幅広の板材がとられる他、笹杣の柱材、落掛に最適である。



秋田杉前立正角 日本の代表的美林であった秋田杉の自然林も第二次世界大戦中からの伐採で殆ど新しい造林にとって代わった。秋田杉は杣目が素直で柔らかいのが特長である。



あかすぎ四方桁 吉野杉は心材の赤味が強いので赤杉と愛称される。3寸5分角の四方桁の柱をとるためには、200年以上のよく太った無節の、直径4寸以上の木が必要である。



霧島杉前立正角 太くダイナミックな笹杣は、美しいだけでなく南国らしいおおらかさを感じさせる。写真は経年変化によって、木理の色が濃くなっている。



霧島杉前立正角 九州地方に産する杉は床柱に、また天井板に用いられ高く評価されてきた。この写真の柱は夏目が比較的白く、冬目がきわ立って優美な印象を与える。



春日杉前立正角 奈良の春日神社の境内や春日山からとれる冬目、夏目とがはっきりとした赤味のある材。杣目が華やかで若干脂気があり、独特の艶がある。